

# 幸せをつなぐ割りばし

青柳 菜々子(お茶の水女子大学附属高等学校 2年)

## 要約

「森」と聞くと何を思い浮かべるだろうか。きっと緑豊かな木々や様々な動物、森を流れる小川など多くの自然が頭に浮かぶはずだ。「森林浴」や「森林セラピー」といった、医学的にも解明された言葉が存在するように、森は私達の心を癒し、幸せな気持ちにさせてくれる。私は、学校の総合的な学習の時間の一環として、「幸せとは何か、幸福とは何か」について、環境問題の側面から探究を行っている。環境問題が深刻化する現在において、地球環境を考えることなしに「幸せ」を語ることはできない。地球温暖化の原因の一つとしても世界の森林の減少が挙げられるが、果たして日本の「森」の今はどうなっているのだろうか。また、これからの日本の「森」はどうあるべきなのか。「幸せ」とは何かを考えながら、考察したい。

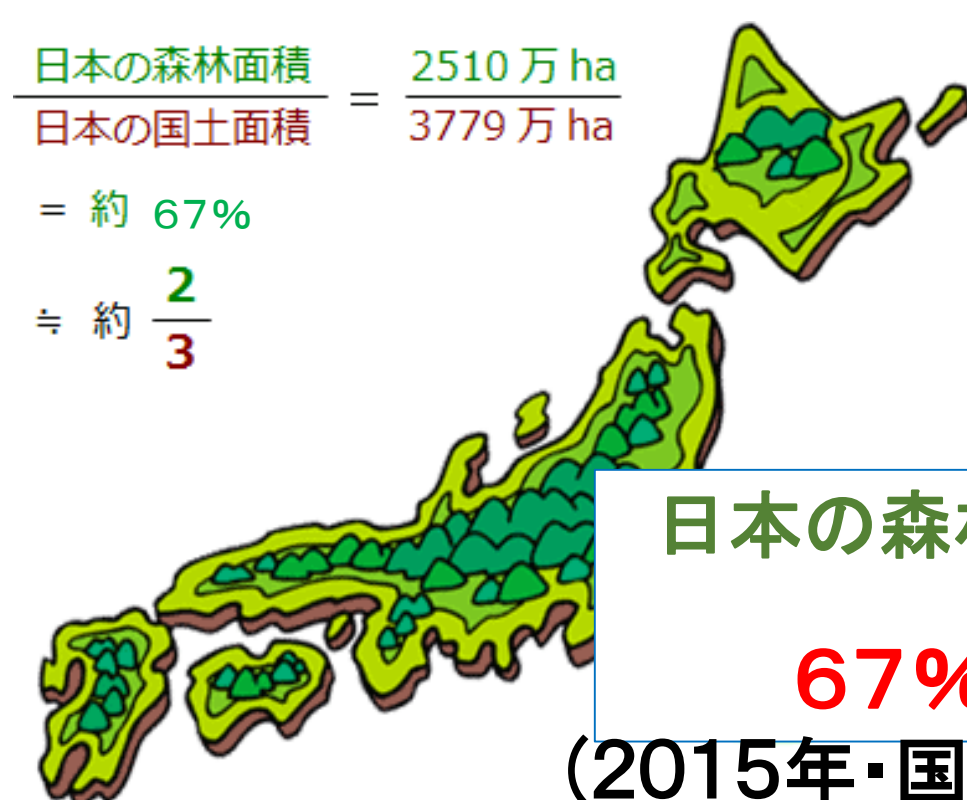
## 1. 森林率

国土面積に対する森林の割合「森林率」

1位 フィンランド:73%

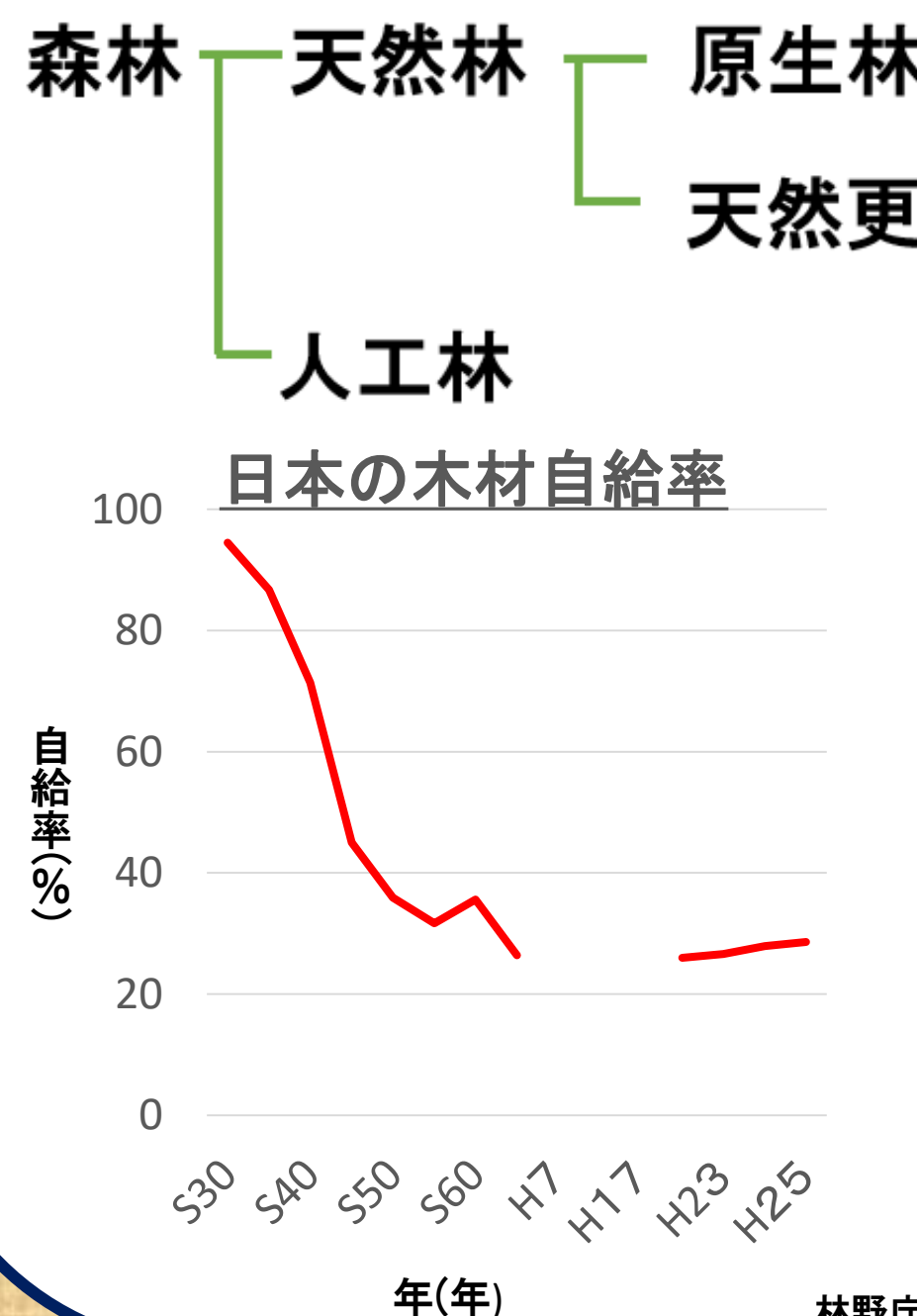
2位 **日本:67%**

森林率から見ると、日本は森林資源に大変富んでいる。前述した森林浴や森林セラピーという観点から考えると、日本にはこれらを行う機会が多く存在し、幸福度が高いという見方もできる。

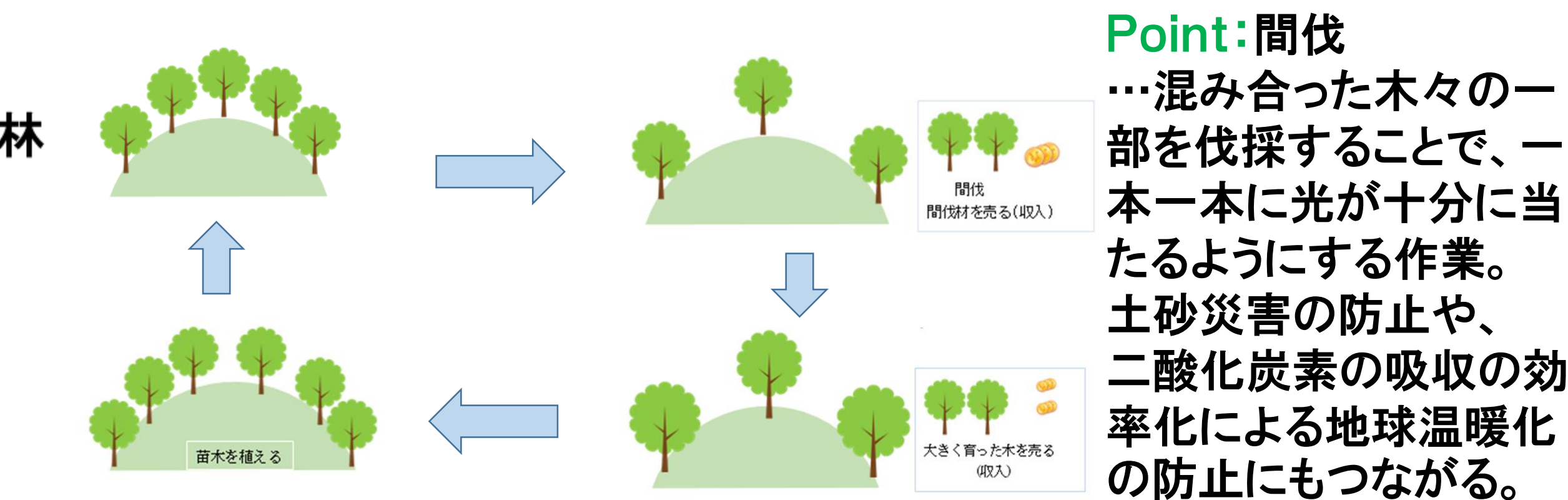


## 2. 森林の種類

・森林の種類



・林業の仕組み



←日本の問題点①  
森林の荒廃…過疎化や高齢化による後継者不足で、間伐などの手入れが十分になされず、森林が荒廃している。

## 3. 取り組み

ここで注意したいのが、日本の森林は外国の森林が抱える問題とは大きく異なることだ。

日本の森: 管理ができないことによる木々の増加が問題。

↓  
世界の森: 乱伐による木々の減少が問題。

→ 日本の課題にあった対策をしなくてはならない。

そこで、これから先日総合的な学習の中で拝聴した、鹿住貴之氏が事務局長を務める、NPO法人JUONNETWORKの取り組みを紹介したい。JUONNETWORKとは、「大学でのゼロエミッション(廃棄物を資源として循環させ排出しない)構想」を掲げ、1998年に設立された認定NPO法人である。

取り組みの例

- ・国産間伐材「樹恩割り箸」…日本の森林を考えるきっかけづくり。 ・田畑の楽校…人手不足の農家の支援。
- ・「森林の楽校」…森林の暮らしを体験を通して学ぶ。

鹿住氏によれば、森林を救うカギとなるのは、「割り箸」だという。どのように森林と関わってくるのか、紹介したい。

＜コラム 雇用と幸せ＞

国産割り箸を制作しているNPO法人「JUON NETWORK」を例にとると環境面だけでなく、障がい者の方々に国内の割り箸工場に働いてもらうことすなわち雇用の提供という、福祉面での役割も担っている。仕事の場が少ない障がい者にとって、働くことができることは幸せなことであろう。



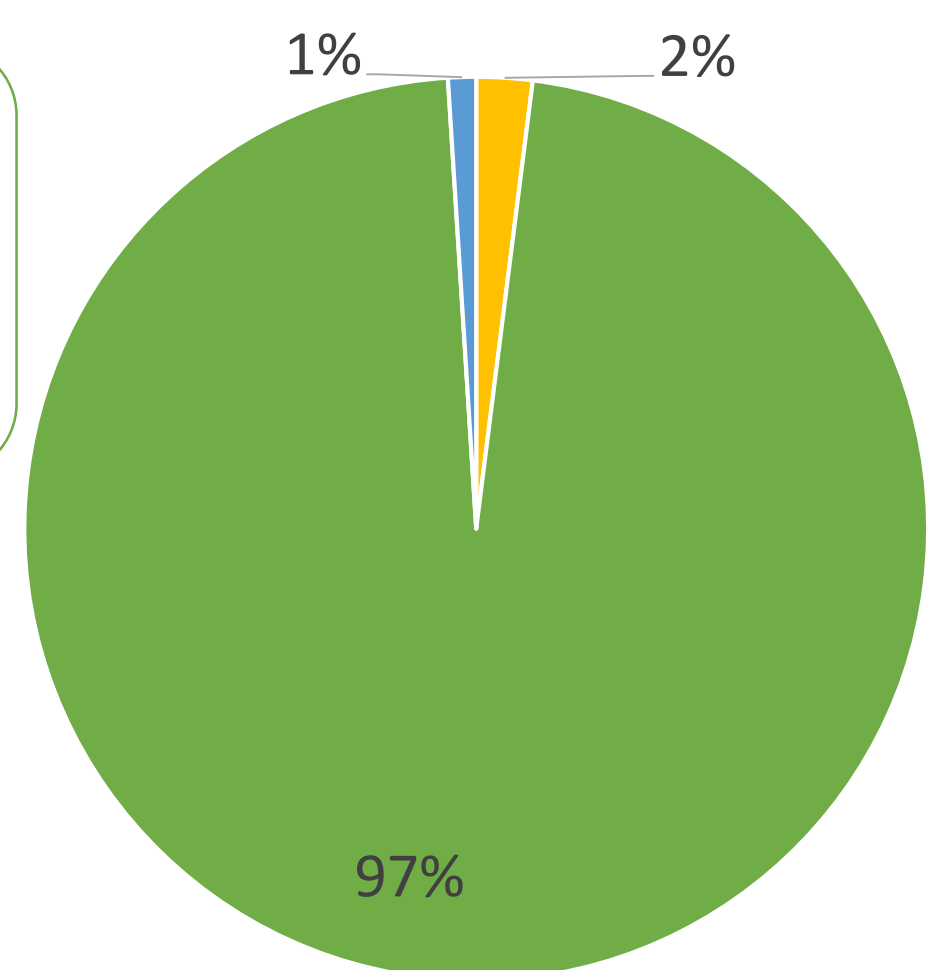
## 4. 国産割り箸

割り箸は環境に悪いのだろうか。

日本では年間約250億膳の割り箸が利用されている。(『林業男子』より)

割り箸の供給実態(2006年)

中国の割り箸:  
材料は丸太からできた薄い単板。  
日本で利用されている  
輸入割り箸の約9割は中国製。



国産割り箸:  
国産の木材の**廃材**  
(製材した際に残った部分)を使っている。  
→森林の木を無駄なく利用できる。

メリット ・廃材を利用した製品は、割り箸を使うことが**森林保護**につながる。  
・使い捨てると、衛生面での**悪影響が少**ない。

(グラフ: 『割りばしが地域と地球を救う』より)

＜コラム 「マイ箸」運動＞

マイ箸運動とは、割り箸を使わず何度も使用できる箸を持参する運動のこと。

背景: 割り箸という、使い捨てる行為が森林を破壊するという

考えが根強かったことがある。

## 日本の問題点②

林業が衰退しているために国産割りばしの生産拡大が難しい。

コストの面で中国製に太刀打ちできない。外国産の割り箸は1膳1円前後、国産の「樹恩割り箸」は2.5円と、価格の差は歴然である。

## 5. 考察・提案

今まで、「割り箸」の観点から、日本の森林について考察してきたが、やはり根本的な問題には「**後継者不足**」が挙げられるようだ。

まずは、できるだけ多くの人に日本の森林の現状について知ってもらうのが大切であろう。そこで私は次の提案をする。

### ①国産割り箸の袋に広告を載せる

森林に関する取り組みを行っている団体は、NPO法人をはじめ多くある。それらの活動を他の広告と合わせて国産割り箸の袋に印刷したらどうだろうか。現在、利用しているのは、主に大学食堂である。これからの担う若者たちを中心に、森の活動について宣伝することができるはずだ。

#### ①-1 コスト面を克服する一案

NPO法人エコメディア・ファンデーションの「アドバシ」、つまり「アドバタイズメント(広告)+バシ(箸)」であり、箸袋に広告を掲載することで**広告収入を得て、価格を低くすることができる仕組み**だ。



\* 画像はNPO法人エコメディア・ファンデーションのHPから引用。

### ②WEB

「What Makes You Happy?」

私はこれから「What Makes You Happy?」をテーマに世界の高校生の幸せについて、日本語と英語の2か国語でWEBページを制作して、発信活動をしていく予定だ。日本と世界の森林の状況が大きく異なるように、国によって抱える環境は違い、それによって皆が考える幸せも変わってくるはずだ。今回の森についての考察も、幸せのひとつの指標として発信できると思う。

「幸せ」は一言では言い切れないし、人によって大きく異なるものだ。しかし、国産割り箸は環境面でも人間活動の面でも双方に良い影響を与えている。これは、どちらにとっても「幸せ」なことではないか。以上のことから、今までとは違った観点で「幸せ」について見つめなおすことができた。まさに、割り「箸」は人間の幸せと森の幸せをつなぐ架け「橋」といえる。

## 6. 参考文献

・1)『割り箸が地域と地球を救う』 佐藤敬一 鹿住貴之 創森社 2007年10月15日発行  
・2)『林業男子 今の森、100年後の森』 山崎真由子 山と溪谷社 2014年5月25日発行  
・3)『割り箸はもったいない?』 田中淳夫 ちくま新書 2007年5月10日発行  
・4) 画像引用含む 国立研究開発法人 森林総合研究所ホームページ <http://www.ffpri.affrc.go.jp/index.html>  
2016年8月7日閲覧

・5) 認定NPO法人JUON(樹恩) NETWORKパンフレット 「ニコはし」  
・6) 国連食糧農業機関2015年版統計データ  
・7) 画像引用 認定NPO法人JUON(樹恩) NETWORKホームページ <http://juon.univcoop.or.jp/index.html> 2016年9月25日閲覧  
・8) 画像引用NPO法人エコメディア・ファンデーションホームページ <http://chikata.net/emf/> 2016年9月25日閲覧